
Mad Scientist

マッドサイエンティスト狂風師

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Mad Scientist

【Nコード】

N3565U

【作者名】

マッドサイエンティスト狂風師

【あらすじ】

実験、興味、解体、解剖、好奇心。

かなり猟奇的な内容になることが予測されます。ご注意ください。

仕入れ（前書き）

とりあえず1話だけ。

短めな日記口調で、1日1話くらいを目指します。

仕入れ

6月25日

女を騙し、自分の研究室に連れ込むことに成功した。

まだ若い、高校生くらいの女の子だ。

強力な睡眠薬を打つておいたのだが、予想以上に効果が長い。

今日一日、まったく起きる気配がない。

少しばかり悪戯を試してみるのも悪くないと思ったが、今後のために、それはやめておいた。

明日、目が覚め、どういう反応をしてくれるのか。

とても楽しみである。

こちらの言うことを素直に聞いてくれればいいのだが、それはないだろう。

舌を噛み千切って死なれては困るので、麻酔か何かを用意しておかなければ。

仕入れ（後書き）

この小説（日記）はフィクションです。

それと同時に、あなたの心を猟奇的に染めていきます。ご注意ください。

（意識：「小説実験」という名の「お遊び」も兼ねています。）

初日（前書き）

ここから微グロ注意。

初日

6月26日

ようやくお姫様が目覚めた。

やはり予想していた通り、喚いたり暴れたりしていた。

仕方がないので、少し痛い目に遭ってもらった。

左手を固定し、小指の爪を半分だけ剥いておいた。

その時に聞いた悲鳴は、忘れられないほどいい声だった。

これから先も、いろいろな悲鳴を期待したい。

さすがに初日から舌を噛むことは無かったが、より一層注意をしなければ。

死なれては、私の実験が終わってしまう。

この後の「鳴き声」のために、最初から喉を傷めすぎでは可愛そうなので、今日のところは爪剥ぎだけにしておいた。

左手に栄養の点滴をやり、放置しておくことにした。

また明日、鳴き声を楽しむとしよう。

初日（後書き）

ヤバい…もうすでに挫折感が…。
意外と難しいのね…。

3日目（前書き）

もう日記形式に飽きてきた。

3日目

6月27日

叫ぶことはなかった。そのかわり、目だけははっきりと抵抗を示していた。

鳴き声を聞きたくなかったので、前回剥がさなかった小指の爪を、全て剥がしておいた。

血を流し、呻き叫ぶ声が忘れられなくなりそうだ。

彼女の方は、3日間、鎖で繋ぎっぱなしなので、そろそろ筋力も低下しているころだろう。

鎖を外してみるのも良いかと思ったが、逃げられる可能性がない訳ではないので、まだ外せないだろう。

軽い媚薬を打ち、経過を楽しむことにした。

頬を赤くしている様は、非常に官能的であった。

そろそろ骨を狙ってもいいが、あまり事を急ぐのは良くないだろう。

次はどこをやるのか。非常に悩む。

3日目（後書き）

あーきた。

非公開にするか、書き方を変える可能性があります。

初実験（前書き）

ここから（たぶん）猟奇的内容。
あるスレを参考にします。

初実験

6月28日

今日から本格的な実験を開始した。

方法は、まず彼女を椅子に座らせ、死なない程度の電気を流す、電気椅子。

前日に筋力が無くなっていることが判明したため、実行に移した。

初めは電気マッサージ程度の威力。

これではほとんど苦痛は与えられないようだ。

2段階目として、静電気程度の威力を、一瞬だけ。それを数十回繰り返した。

最後は、ある程度弱い電流を長時間流し、放置。

呻き声しか上げて、体を弓なりにしていた。

何回も失禁して、床を汚していた。

電気を流すことにより、筋肉が緩むため仕方ないが、後で罰を与えなければ。

初実験（後書き）

あー…もうダメかもしれないね…。

実験2日目(前書き)

ここに書いてあることを、実際に行うと、犯罪です。
ダメ。ゼッタイ。

実験2日目

6月29日

本日は水責めを行った。

体が反るように寝かせ、水を無理やり飲ませるもの。

口に漏斗を啜えさせると、怯えた表情をしていた。

おそらく、これから何をするのか、察しがついていたのだろう。

こんな知識を持っているとは思ってなかった。

実際に水を入れ始めると、喉を鳴らして飲み始めた。

きつと、すぐく喉が渴いていたに違いない。

さらに追加していくと、それに比例するように、表情が曇っていた。

もちろん、窒息させない程度に、考えながら水を与えた。

限界まで飲ませたところで、一度休憩を入れた。

休憩の間は、鉄の棒で腹を殴り、吐かせた。

そして再び水を流し込む。

辛そうな表情と、ひどく怯えた表情を観察できたところで、今日の
実験は終了。

実験2日目（後書き）

最近…いや、今日から忙しくなりました。

詳しくは、車校とか車校とか車校とか。

更新に影響が出ないようにしますが、もしかしたら出てしまつかもしれません。

実験3日目(前書き)

こちら辺の話は、1話完結になってますので、前の話と繋がりはないです。

実験3日目

6月30日

今日の実験は、引き伸ばし器。

両手両足をを紐で縛り、足は下の台へ、手は巻き取り台へ結ぶ。

ゆっくりと紐を巻いていくと、ゆっくりと伸びていった。

ある程度巻いたところで、一時停止。

体が伸びて、気持ち良さそうな、苦い表情だった。

さらに巻き取っていく。

非常に心地よい、肩の関節が外れる音が聞こえた。

彼女の体には激痛が走っているのだろう。

快樂の混じった、悲鳴が聞こえたような気がする。

今日の実験はこれで終了。

そろそろ舌を噛み千切って死なれる恐れがあるので、明日にでも対処しよう。

実験3日目（後書き）

新小説を書き始めようか悩み中。

実験4日目(前書き)

舌切り回。

実験4日目

7月1日

そろそろ自殺の可能性もあつたため、舌を切ることにした。

猿轡ちんぐしわやタオルでのガードは、悲鳴を聞こえにくくするので好きではない。

舌を噛み切られるなら、舌が無ければいい。そういう考えである。

さっそく実行に移したのだが、1つ問題が発生した。

麻酔が無い事を忘れていた。

その代わりに、前に使用した電気椅子の電気で舌を痺れさせ、切断した。

止血と輸血を行い、実験はやめておいた。

負担を掛け過ぎ、ショック死などを起こされては、意味がないと判断。

切除した舌は、ある程度の薄さにスライスし、焼いて食べた。

彼女は、もうまともには話せないだろう。

実験体はかなりグッタリしている。

暑さのせいだろうか。

保存環境の事までは考えてなかった。

今後、何かしらの対策をしなければならぬだろう。

実験4日目（後書き）

カニバじゃー！。カニバリズムじゃー！

実験5日目(前書き)

引き続き口責め。

実験5日目

7月2日

舌を切断したとはいえ、自殺の可能性がないわけではない。

そう思い、噛み切ることが出来ぬよう、歯抜きを実行した。

麻酔は手に入れることが出来なかったので、前回と同じく電気による麻酔とした。

もはや目は虚ろで、大した抵抗もしてこなかった。

歯茎に針金を刺すと、弱々しい悲鳴が漏れた。

何を言っているのかまでは、わからなかった。

電気を流し、ペンチで抜いていく。

血で滑り非常に抜きにくかったが、なんとか奥歯まで、全て抜くことが出来た。

親知らずも抜いておいたので、歯が痛むこともないだろう。

止血と輸血は忘れずに施しておいた。

さすがに歯は食べれないので、袋に入れて保管することとした。

実験5日目（後書き）

バニラエッセンスを買ったのは失敗だったかもしれない。
まあ、飾りになるからいいか。

実験6日目(前書き)

敬語姉っていいよね。

そのジャンルで1作品書きたい。

実験6日目

7月3日

人間の皮膚は、ある程度なら再生する。

今回の実験は、それに関するものとした。

ガスコンロ、取っ手のある鉄の棒を数本、刺身包丁を用意。

鉄の棒を熱している間、包丁で皮膚に傷をつけていく。

深く切り過ぎ、再生が遅くなるのには、気を付けなければならなかった。

血が線をつくり床に落ちていく様は、絵の具で絵を書いているようだった。

追加でカミソリを持ってきて、皮膚を薄く剃ることにした。

左腕を擦り傷みたいに傷をつけたところで、熱しておいた鉄の棒を、そこに押し当てる。

肉が焼けていく匂いが、食欲をそそった。

熱した他の棒で、体に文字を焼き込んでいく。

『実験体』と焼印をしておいた。

その他数か所、軽い焼きをいれて終了。

深い火傷を負わずと、後々の楽しみがなくなるため、軽度で済ませしておく。

保存環境については、未だ変わっていない。

実験6日目（後書き）

そろそろ本格的にダメージを与えていこうか。

実験7日目（前書き）

もう一回口責め。

実験7日目

7月4日

彼女の小さな口を、大きくしてあげた。

今回、ようやく麻酔が手に入ったため、適当に顔に注射し手術を行った。

ただし、適量はわからないので、やや少な目だと思つ量を使った。

唇の端にメスを当て、耳元まで切っていく。

反対側も同様に行く。

実際には大きくなってないが、外見上、赤い線が異様に長くなつており、口裂け女みたいになっていた。

事実、裂けているので、口裂け女『みたい』ではないが。

軽く縫い付け、何かの拍子に外れるようになってる。

保存環境の問題だが、応急処置として、エアコンを導入した。

とりあえずこれで、長く保つだろう。

実験7日目（後書き）

ゆめにつきのガチャガチャがあるんだってね。
今度やりにいこう。魔女とポニ子ほしい。

実験8日目（前書き）

もう大した実験はないです。

実験8日目

7月5日

裂けた口はそのままに、今度は足の実験を開始した。

もはや歩くことは無いので、 unnecessary 指を、小指から順番に切り取っていく作業。

道具は様々なものを用意した。

糸鋸、金槌、包丁、園芸用の大きな鋏、斧、チェーンソーなど。

金槌で叩くと、骨が碎ける鈍い音がし、さらに叩いていくと、肉が潰れる音が聞こえた。

最終的に、こんなにやく程の柔らかさになったので、近くにあったメスで切り取った。

包丁では、骨に当たり非常に切りにくかった。

その他の道具では、比較的切断はスムーズに行えた。

チェーンソーで、まとめて数本切り取ってしまうというトラブルは発生したが、結果は同じである。

実験8日目（後書き）

ここに書いてあることを実行したわけではありません。
書いてある通りにならなくても、作者に責任はありません。

実験9日目（前書き）

毛抜き回。

だんだんと地味になっていく。

実験9日目

7月6日

足の指を切り終わってしまい、そろそろ大してすることもなくなってきた。

かといって、殺してしまうのは、あまりにもつたいない。

ふと、髪の毛が目があったので、今回は毛抜きを実行することにした。

細かな毛と眉毛は、ガムテープで取り除いていった。

まつ毛は、まぶたの抵抗もあり、かなり抜きにくかった。

毛抜きで1本ずつ、なんとか抜いた。

最後に頭の毛。

これは、何の道具も使わず、引っ張って無理やり抜いた。

髪のない実験体を見るのは、少々気持ち悪いが、実験の為、仕方ないと思うことにしよう。

実験9日目（後書き）

後書きに書くことが無いです。
あんまり書かなくなるかも。

実験10日目(前書き)

七夕ということで虫責め。

実験10日目

7月7日

実験体が眠たそうな、疲れた顔をしていた。

そういった顔を楽しむのもいいのだが、私欲は我慢しておいた。

今回は肉体的ダメージではなく、精神的ダメージを主とした実験を行った。

実験体を隣の小部屋に移動させ、扉には二重の鍵をしておく。

部屋には、死角がない程度の監視カメラを設置してある。

しっかりと扉が閉まったことを確認し、別の壁の小窓から、大量の虫を部屋に放った。

使用した虫は、蚊、ハエ、ゴキブリ、クモ、ムカデ、蛾。

全て死ぬような毒をもっていない、安全なものを使用した。

放ち始めるとすぐに、扉を叩くのを確認。

痛そうな足と手で必死に助けを求める姿に、思わず虫を追加したくなった。

しかし、これ以上の虫は確保してなかったために断念。

今日はこのまま一晩過して貰おう。

実験10日目(後書き)

作者はMですが虫は嫌いです。
特にクモと見ると発狂しそうになります。

実験 11 日目 (前書き)

魔女の宅急便を見ながら執筆。

実験 11 日目

7月8日

小部屋に殺虫剤を散布し、虫が死滅したところで実験体を回収。

多少、体に影響が出てくると思うが、いつもの部屋に虫を出さないためには、仕方がない事だ。

涙と鼻水で顔は汚れ、喉は枯れているのだろう。声が出せていなかった。

そんな顔を見ていたら、無意識に足が動いていた。

彼女の顔面を踏みつけ、ゴリゴリと動かしていた。

潰れた喉で声にならない叫び声出し、ひたすらに助けを求めていた。

そのことで、さらに気分が乗ってしまい、より強く、踏みつけていた。

今日の事は反省しなければならぬだろう。

今後、殺虫剤の件も合わせて、影響が出なければいいが。

実験11日目(後書き)

『緋弾のアリア』の最終回を見たら書きたくなくなった。
顔踏み。

全然できてないけどね。

実験12日目(前書き)

顔踏み以外のネタを考えてなかった。
どうしようか。

実験12日目

7月9日

そろそろ実験内容が尽きてきた。

腕をもちだり、足を千切ったり、目を抉りだしたりするのはあるが、まだ早いだろう。

今回はまたも精神的ダメージを目的とした。

目を閉じれないように、まぶたを固定し、男性がバラバラに切られていく映像を15分。

音はスピーカーから流した。

3分の休憩の後、再び別のグロテスクな映像を15分。休憩を3分。

これを繰り返していった。

実験体はそういったものに、耐性がなかったのだろう。

2回目の時には、いつも通りの叫びをあげていた。

しかし、この叫び声を毎回毎回聞かされる身にもなって欲しい。

いい加減に、違ったタイプの叫び声が聴きたいのが本音だ。

さて、次はどんな実験をしようか。

新しい実験体を確保するもの面白いか。

実験12日目（後書き）

拷問ネタ募集。

ただし、作者が書ける範囲内になります。

実験13日目(前書き)

日記の中での表記方法の違いについて。

『実験体』の場合、彼は、ただの物として見てます。

『彼女』の場合、ある程度人として(またはある程度の好意を持って)見てます。

実験13日目

7月10日

前にグロテスクな映像を見せたからだろう。

顔が大変なくらいに汚れている。

何かしらの方法で拭きとってあげてもよかったのだが、今回は別の事をする事とした。

顔全体映って、ある程度余裕のある鏡を用意した。

自分自身の今の汚さと、その酷さを見てもらうためだ。

毛抜きを行って、さらに口も裂いてあるその顔を見て、実験体はシヨックを隠し切れないようだった。

まだそれほど肉体的ダメージは与えてないと思っていたが、実験体にとっては余程のダメージだったようだ。

汚れた顔を、より汚して目を背けていた。

もちろん見させなければ意味が無いので、前回と同じくまぶたを固定させた。

まだ実験の序章すぎないということを、彼女は知っているのだろうか。

実験13日目(後書き)

序章とか言ってますみません。

嘘になるかどうなるか、作者にもわかりません。

とりあえず、名月祭は楽しかった。

実験14日目

7月11日

二度にわたる視覚からのダメージにより、実験体は目を開けなくなつた。

あまりにも見たくない拒むので、望み通り、外を見えなくて済むようにしておいた。

右目に先の尖つたスプーンのようなものを差し込み、抉り出す。

麻酔はなし。どこぞのアニメでもやっていたので大丈夫だろう。

左目にも同様の事をしようとしたが、完全に視界を奪ってしまうのは勿体ない気がしたので、片方だけにしておいた。

まだ利用価値があるかもしれないので。

くり抜いた目玉は、どこかの三國武将みたいに、実験体に食べさせた。

もちろん生のままです。

実験14日目(後書き)

どこのアニメ＝デッドマン・ワンダーランド
どこの三國武将＝夏侯惇(夏侯元讓)

実験15日目(前書き)

耳千切り回。

実験15日目

7月12日

片方の目を抉り、右目に眼帯をつけている。

眼帯を付けている姿は、いかにも『実験体です』といった感じで、とても可愛く見える。

そんな彼女の右耳を切り落とす実験を開始した。

適当な刃物を耳の内側にあて、一気に落とす。

今回は部分麻酔を使用。ただし、効力は弱め。

多少痛みを伴ってもらわないと面白くない。

実験体はさらに弱くなっていくが、その弱った姿がかわいらしい。

さすがにこのまま弱ってもらっては死の危険があるため、栄養剤も普段のより濃いものを使用。

体力を回復させるため、滋養強壮効果のあるものも入れておいた。

実験15日目(後書き)

次は鼻。覚えていれば。

実験16日目

7月13日

耳を切り取り、次は鼻を切り落とすことにした。

鼻の横側に刃物を当て、ゆっくりと食い込ませていく。

息が出来るように、穴だけは開けておく。

切り取った後の場所は、皮膚が明らかに足りないので、切り取ったものから皮を剥ぎ、縫い合わせた。

平坦な顔の見た目は、ずさんに扱われた人形みたいな感じとなっている。

頭を撫でて、爪を立て、赤い痕を付けておいた。特に意味はない。

いつも通り栄養を与え、鏡を設置して放置しておいた。

また自分の姿が見たくなるだろう。

次回は全体的にこんがり焼いてみよう。

実験16日目(後書き)

短いのは、書けないのと飽きてきた証拠。

実験17日目(前書き)

使いたくはなかった奥の手をすぐに使う作者。

実験17日目

7月14日

さすがに一つの実験体では飽きてきたので、一つ追加することにしました。

捕まえる方法は最初の時と同じ方法を用いた。

新しく捕まえた実験体には、古い実験体とは別の部屋に入れ、今までとは別の実験を行うことにした。

媚薬を打ち、中毒性のある薬を打つ。

具体的に言えば、性的な調教である。

快樂の海というのは表現が臭い気がするが、一番しっくりくる表現なので、そう表記する。

最初の内は、強い媚薬から始める。

早くも体の疼きが抑えられないようで、顔を紅潮させて足をモジモジさせていた。

使えそうな道具を数個置いておき、実験体を一人にさせる。

もちろん、この部屋には隠しカメラがいくつも設置してある。

薬の効果は後で診るとして、旧実験体には適当な拷問。

下半身はこの後使う予定なので、これ以上傷つけるのはやめ、上半身だけに集中することにする。

実験17日目（後書き）

使いたくはなかった、工口路線。
でもここまで来たら仕方ないね。作者の書く気力も復活するし。

実験18日目

7月15日

この前の隠しカメラの映像を確認したところ、しっかりとやることはやってあった。

体と床、服を見てもそれは明らかだった。

今日の実験も、前回と同じように媚薬を打つ。

ただし、前回使った濃さよりも若干薄くしてある。

毎日こつやっつていれば、そのうち極めて薄くても効果があるだろう。

薬が効いてきたところで、ある動物を連れてきた。

血が出ていたので初めてだったのだろう。

少なくとも豚とやるのは初めてのはずだ。

発情期の豚は狂ったように腰を振り、実験体も同時に腰を振っていた。

録画はしてあるので、売れば儲かるだろうが、そんな事のためにはやってない。

中に出されて感じているとこまで、しっかりと確認できた。

旧実験体には、休息日、という事で何もしないでおいた。

実験19日目

7月16日

新実験体に、いつものように媚薬を打つ。

かなり染まってきたのか、三分の一ほど栄養剤で薄めたが、効果は普段通りだった。

明日にでも旧実験体とご対面させようか。

薬の回りも早くなっており、打った途端に自分を慰め始めた。

淫語も次々と発すようになり、だいぶ堕ちてきたようだ。

さて、新しい実験体の作業に取り掛かる前に、古い実験体の方にある物を見せる。

一枚の写真。実験体の家族の写真だ。

懐かしかったのだろうか。左目から涙を流していた。

二枚目の写真。実験体の父親が切り裂かれ、死んでいる写真。

もちろん偽物。これくらいの物を作るのは造作もない。

しかし、効果は絶大のようで、狂ったように叫んでいた。

三枚目。今度は母親の死体写真。

もちろんこれも偽物。

瞳孔が開き、絶望している顔。今までで一番の顔じゃないだろうか。

三枚の写真を実験体の前に置き、新実験台の方へ向かった。

短い時間のはずなのに、床には水たまりが出来ていた。

適当に突っ込んで、搾り取られた。

それにしても、あの薬の効果はすごい。それとも彼女のが名器なのだろうか。

実験19日目(後書き)

そのうち日記口調じゃなくなるかもしれない。

実験20日目

7月17日

いつも通り媚薬を打った。

今回使用した量は、最初の半分ほどの薄さ。

それでも十分に効果はあり、依存性が確認できる。

打った後、すぐに体を縄で縛り、旧実験体の方へ持っていった。

部屋は血生臭いが、新実験体の方は全く気にしていない様子だった。

縄を解いてやると、一目散に旧実験体の方へと駆け寄っていった。

自分の秘部と相手の秘部を擦り合わせ、快感を得ている。

旧実験体は、初めての行為、しかも見ず知らずの人とやるのが怖いようで、涙を浮かべていた。

あのまま一晩、一緒にいさせよう。

実験期間も残り十日となった。

レス中毒になるのが早いか、くっつくのが早いか。

実験20日目（後書き）

さらりと何かを宣言した気がするが、きっと気のせいだ。

もしかしたら、冒険物を書くかもしれない。予定は未定。

実験21日目

7月18日

完全に堕ちてしまった新実験台と、ズタボロの旧実験台を一緒にしておいた。

すると、古い方は失神してしまっていた。

対して、新しい方は元気に腰を振っていた。

媚薬の効果があそこまで継続するとは考えにくいため、精神的にも肉体的にも支配されてしまったようだ。

今回実験するはずだったものは、ある人物によって阻害されてしまった。

どこから嗅ぎつけたのか、実験体の購入希望者が現れた。

30代半ばといった感じの人だ。

売る気はあまりなかったが、予想外の金を積まれた。

一応考えておくとしよう。

その後男性は、2人の具合が見たい。と言い、またも金を出してきた。

実験は阻害されたが、臨時収入があったのでよしとしよう。

男性は2人のいる部屋に入っていた。

こちらには監視カメラがあることを知っているのだろうか。

そして、この情報は、一体どこから漏れたのだろうか。

実験22日目

7月19日

実験体の2つを性的な意味でくっつけてしまったため、最早やる事がなくなってしまった。

肢体の切断や脳みその解剖などは、やろうと思えばできるのだが、華が無い。

そこで、最終実験に移ることにした。

この実験が、最初からの望みと言っても過言ではない。

今までの実験は、言わばお遊び。全く関係ない。

さっそく実験を開始した。

猿みたいに興奮して腰を振ってるバカを引きはがし、チェーンソーで体を縦に二等分する。

切り終わり、怯えて震えている旧実験体を、同じように二等分する。

新しい方の右半身と、古い方の左半身を縫い付ける。

身長差が出来るだけ少なくなるように、実験体を捕まえたので、身長の問題はなかった。

戸棚の中に入れて観賞用にしておこう。

実験22日目(後書き)

(たぶん)次で終わり。

最終日（前書き）

ホラー注意。

最終日

7月20日

これにて私の実験を終了したいと思う。

残った半分ずつの死体は、身と骨を分け、肉は焼いて食べ骨は煮込んだ。

部屋中にタンパク質の焼ける匂いが充満して、今もまだ匂う。

しかし、これで実験体がいなくなってしまったため、またどこから捕まえて来なくては。

今度はどんな実験をしようか。今から楽しみで仕方ない。

この日記は、ここから下が破られているため読めない。

残りのページは血のようなものでくっ付いており、めくれそうにない。

この日記とこの場所を見て言えることは、実際にここでグロテスクな実験が行われていたということ。

そして、日記は非常に劣化しており、放置されてかなりの時間がたっているということ。

薄気味悪いこの場所で、実験主はどうなってしまったのだろうか。

女性「は、早く出ようよ……」

男性「大丈夫だって。もうここには誰もいないよ」

女性「で、でも……」

男性「じゃあ日記も取ったし、帰るか」

2人が立ち去ろうとしたとき、音を立てて開く戸棚があった。

最終日（後書き）

完結。

やる気とやりたい事がなくなった。

Dark Blueというゲームのあのシーンをやってみたかった
だけです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3565u/>

Mad Scientist

2011年7月24日18時06分発行